

2023年度自転車安全点検全国普及活動 実施報告

一般財団法人自転車産業振興協会

当協会は、自転車利用者に使用中の自転車の日常点検・整備の励行を促すために、日本自転車軽自動車商協同組合連合会及び傘下の各都道府県自転車商協同組合の協力を得て、学校や公共の場における「拠点型安全点検」、自転車小売店における「店舗型安全点検」、学校、都道府県警察、地方公共団体、自転車安全推進団体等と連携して「安全点検講習会」を実施している。

1. 拠点型安全点検

学校、都道府県警察、地方公共団体、自転車安全推進団体等からの要請を受け、43都道府県1,839会場、179,284台の自転車を点検した。会場は小学校、中学校、高校や大学等の学校が大部分で1509会場、82.1%を占めた。学校での点検が多いことが特徴で整備良好車が約74%と高い。



2. 店舗型安全点検

店舗型安全点検の会場は自転車小売店であり、31都道府県1,218店舗で実施し、23,761台の自転車を点検した。1店舗当たりの点検台数は19.5台であった。

3. 安全点検講習会

自転車の選び方や日常点検・整備の重要性、正しい自転車の乗り方等の講習会を25都道府県344会場で開催し26,438人の参加があった。この講習会は全体の30.8%、106会場で都道府県警察と連携し開催した。道路交通法の一部改正により、2023年4月1日からの自転車利用者のヘルメット着用努力義務などを受け実施会場は増加傾向にある。

4. まとめ

拠点型安全点検の結果を分析すると要整備箇所はブレーキ13,815件、車輪10,428件、チェーン8,866件が上位を占め、通学などの日常的な自転車利用を考慮すると、自転車の定期点検促進とルール・マナーの啓発がますます重要になってくる。

